

【質問】先日、政府が「骨太の方針二〇〇八」で年間二千二百億円の社会保障費の削減を決めた、との報道がありました。医療にどのような影響があるのでしょうか。

(43歳・会社員男性)

「骨太の方針」影響は

【回答】現在の医療は「お

産ができない」「夜間診てくれる小児科の先生がいない」「救急で受け入れてもらえない」などの多くの問題を抱えています。産科や小児科、救急医療から始まった医師不足は今や全科に及び、勤務医は疲れ切つて、地域医療が崩壊寸前の状態にあります。

医療崩壊の大きな原因は、重要政策運営の基本方

医療制度



定しました。さらに「骨太の方針〇六」では、一一年まで社会保障費の削減を延長す

％増えるとされており、これを「自然増」といいます。逆に自然増がないということとは、新しい医療技術を保険診療に取り入れることができないということにもなります。この点について、日本医師会は〇二年に始まった年二千二百億円の削減

医療費10年で8兆円削減

針「骨太の方針」による社会

保障費の削減と長年にわたる医療費抑制にあります。

二〇〇二年に政府は、一〇年代初頭に基礎的財政収支を黒字化するため、国負担分の社会保障費を五年間で

一兆一千億円(毎年二千二百億円)削減することを決

ることを決定しました。

〇六年の国民医療費は約三十二兆円ですから、「二

千二百億円削減しても大きな影響はないのでは」と思われがちですが、それは違います。

国民医療費は医療技術の進歩などにより毎年3—4

が一一年まで続くと、毎年

の自然増が抑えられるため、実は十年間で十二兆一

千億円の削減額になると推計しています。

社会保障費には医療費以外に年金や福祉費が含まれており、削減される十二兆一千億円のうち医療費が占

社会保障費の圧縮中止を

めるのは七兆八千億円の見込みです。十年間で八兆円近くも医療費を削減されたら、安心でゆとりある医療は望めません。こんな状況では、多くの勤務医が病院を去っているのも無理からぬことです。

イギリスはサッチャー首相時代に大幅に医療費を削減したために、医師が国外に逃げ出し、多くのがん患者が六カ月以上も手術を待たなければいけませんでした。日本がイギリスのような大きな医療崩壊を来さないようにするためには、まず「骨太の方針」を見直すことが必要です。日本医師会は社会保障費の削減の即時中止を訴えています。

(県医師会)